

考えてみよう！



それぞれのことわざの意味を考えて、オリジナルことわざをつくってみよう！（下の空欄に書いてね！）
右の空欄にはイラストも描いてみよう！

井の中の蛙大海を知らず

☆☆☆

いのなかのかわずたいかいをしらず

意 ちっぽけな井戸の中に住む蛙は、外にある大きな海や広い世界のことを知らない。つまり、考えや見聞が狭く、広い社会のことを知らないことのとえ。

紺屋の白袴

☆☆☆

こうやのしろばかま

意 紺屋とは染物屋のこと。専門としていることについて、それが自分のことになるとかえって気にしなかったり、こだわる暇がないという意味。

類 医者の不養生

遠くの親類より近くの他人

☆☆☆

とくくのしんせきよりちかくのたにん

意 いざというときに頼りになるのは、遠く離れて暮らす親類ではなくて、近所に住んでいる他人のほうだということ。

類 遠親は近隣に如かず **対** 血は水より濃い

寄らば大樹の陰

☆☆☆

よらばたいじゅのかげ

意 森の中で身を預けるなら、細木よりも大樹の方が心強い。どうせ頼るのなら、力のあるしっかりした人や組織に頼る方が良いということ。

岡目八目

☆☆☆

おかめはちもく

意 「岡目」とは、他人のしていることを傍から見ていること。つまり、当事者よりも第三者の方がものを冷静に観察できるので、正確な判断が出来るという意味。

虎穴に入らずんば虎子を得ず

☆☆☆

こけつにいらずんばこしをえず

意 虎の住む穴に入らなければ虎の子を得ることは出来ない。なにことも危険を冒すことなしに成功をすることは出来ない、ということ。

泥棒を捉えて縄をなう

☆☆☆

どろぼうをとらえてなわをなう

意 泥棒を捕まえてから、その泥棒を縛るための縄をなうということから、事態が起こってからあわてて準備することのとえ。

類 戦を見て矢をはく

風が吹けば桶屋が儲かる

☆☆☆

かぜがふけばおけやがもうかる

意 ものごとが巡り巡って意外なところに影響を及ぼすこと。

（風が吹くと砂ほこりが舞い上がり、目が悪い人が増える。目の不自由な人は三味線を弾いて生活するので三味線を作るのに使う猫の皮がたくさん必要になる。多くの猫が捕らえられ猫の数が少なくなると、猫に食べられていたネズミが増える。ネズミは桶をかじるので新しい桶がよく売れて桶屋が繁盛する。）